

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200264		
法人名	有限会社 セカンドライフ		
事業所名	グループホーム 北のくにから(1階)		
所在地	恵庭市島松本町4丁目8番25号		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年7月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani?true&JigyosyoCd=0171200264-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はJR島松駅から徒歩5分、周辺は閑静な住宅街となっています。町内には老人ホームや公民館、かつら公園、島松神社があり、消防署は5分ほどで駆け付けられる場所にあり。室内は日当たりがよく開放的で季節感のある展示物の工夫などをして居心地のよい空間づくりに力を入れています。一人一人の今できることを少しでも長く継続できる生活を送って頂けるよう、会議やケアカンファレンスでの意見交換を活発に行い、職員全員が同じ目標に向かって取り組んでいます。安心して生活していただくために、職員の外部研修の参加、ホーム内研修で育成を行っています。地域との交流は、コロナにより減ってしまいましたが新聞の回覧などを通しホーム内の様子を発信しています。ご家族様の意向がありましたら看取りまで行います。訪問看護師や訪問診療医師のアドバイスをいただきながら職員全員で最期まで穏やかに過ごしていただけるような体制ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵庭市郊外の静かな住宅地にある開設16年の2ユニットのグループホームです。地域とのつながりを重視し、コロナ禍で直接交流が難しい中でも事業所新聞を定期的に回覧し、認知症の啓発活動を継続しています。身体拘束のチェックリストをもとに不適切ケアがないかを定期的に確認するなど、職員は権利擁護の意識を持つよう努めています。利用者の筋力低下を防止するため、少人数で積極的に外出し、気分転換を兼ね利用者と職員がのんびりと話す時間を作っています。介護計画はできるだけ利用者や家族に対面で説明し、意見の反映に努めています。週3回の訪問診療、週3回の訪問看護と歯科訪問受診を受けられる体制を整え、利用者の健康管理に努めています。食事のメニューは予め決めず、その時食べたいもののリクエストにも応えるようにするなど、入居前の生活の継続や家庭的な雰囲気掲げる理念を実現するよう職員が話し合い、ケアを実践しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で笑顔に満ちた生活」の理念に沿った介護に努めている	理念は、利用者の日々の生活のありようと、地域とのつながりについて明文化しています。一人ひとりの生活歴を踏まえ、家庭的な雰囲気大切に支援を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前はお祭りや清掃活動などに参加していた	感染症の蔓延により、地域とのつながりを継続することが以前と比べて難しい状況です。利用者は地域の一員としてユニット単位で町内会に加入しています。町内会向けの事業所広報を年4回作成し、町内で回覧して認知症と事業所の生活を伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回発行の新聞に、生活の様子、認知症という病気の理解をして頂くための記事を載せ情報の発信に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ以前は意見や情報の交換を、年2回の避難訓練を行いサービス向上に努めている	今年度は6回、書面で会議を行い役所に提出しています。運営推進会議の議事録は玄関に掲示し来訪者が見られるようにしています。向かいにある特別養護老人ホームとは双方の運営推進会議に出席し合い、情報交換と、非常時等の協力関係についても話し合っています。	運営推進会議への家族の参加は、家族の協力と理解を得るためにも大切です。家族に運営推進会議の開催を告知すると共に出席を促し、会議の議事録を送付することにより、出席できない家族とも、事業所の状況を共有することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ以前は2ヶ月に一度運営推進会議にて現状報告をしていました。現在事業所内開催の為に文書にて報告しています。	書類の提出時などに、市の担当者に事業所の状況を伝え、連携しています。市からの緊急連絡は無線放送により常時受け取っており、災害情報や高齢者の行方不明情報などをいち早く共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加、毎月個人カンファを行いケアのチェック見直ししている。外部からの侵入防止の為玄関の施錠。	毎月利用者ごとに身体的拘束が行われていないか、チェックリストをもとに確認しています。身体拘束のグレーゾーンへの対応は、ユニットリーダーを中心に利用者ごとに対応を検討し、職員間で共有しています。また、身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、結果を職員間で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、新聞や介護誌等に掲載された記事の回覧、それについての意見交換を通しお互いのケアの振り返りを行い予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し勉強の機会を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明してサインを頂いています。不明な点は口頭にてお伝えしています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接話せる雰囲気づくりをしています。お便りや介護計画の説明時にご意見を聞き運営に反映している。	介護計画の説明時や面会、電話の際に、家族の意見を聞くように努めています。家族からの要望が多い利用者の筋力低下防止の取組について、散歩などで積極的に外出できるよう日々の運営を改善するなど、意見を反映し対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議にて意見提案を聞く機会を設けている	職員との定期面談を年1回行い、職員から個別に意見を聴取しています。また、毎月の会議でも職員からの意見を聞く機会を設け、働きやすい職場づくりに反映しています。	ヒヤリハットや事故後の改善策の話し合いの結果を书面で整備していますが、職員から出された具体的な取組や取組後の評価は記録していません。運営への反映を行う上でも、記録等を整備していくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任や各ユニットリーダーに入居者受け入れ、職員指導、医療的判断以外の対応や方向性の決定権を持たせている。資格手当や処遇改善を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはオリエンテーション、指導者の付をし育成している。資格取得のための研修の提案、休みやシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のGHネットワークに参加しグループラインやリモート会議などでコロナ禍でも交流している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状況確認や希望を聞き「暫定介護計画」と共に職員への周知をすることで対応が適切にできるようにしている。入居後は変化を観察し、それに対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から不安要望などを話していただき対応するよう努力している。その後いろいろな方法で良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が望む支援を見極め、そのほか利用できる支援を含めて必要な支援が出来るよう努める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望に沿い、出来る家事やレクリエーション、庭の手入れなどコミュニケーションを取りながら行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ以前は、行事の際にご家族にも声掛けして共に過ごしてできる範囲内で介助もしていた。ご家族と外出も積極的に進めていた		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた知人からはがきが届いたりしている。職員とドライブがてら自宅や自宅周辺を見に行くこともある。	新型コロナウイルスの蔓延により、友人知人との面会は難しい状況となっています。SNSの動画を活用して家族と利用者が画面越しに対面することができるようにしています。ドライブに出かけた際に自宅近辺を見に行く等、制限がある中でも人や場との関係を継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係が持てるよう見守り、観察を基に仲介している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、家族の相談に対応している。また、退居後も農作物など届けに来て下さっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、ふとした言葉や表情から思いを察し本人が伝えやすい環境づくりをしている	利用者の思いや意向は、日々の支援の中で発せられた言葉や表情、しぐさから、介護記録等で職員が情報共有しています。介護計画も利用者に説明し、希望を踏まえた支援が出来るようにしています。また、家族とも連携し、利用者本位の対応になるよう検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの情報記録からこれまでの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子を観察し、安心して個々の力を発揮しながら楽しく暮らしていただけるよう支援していく		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファでモニタリングを行い、必要時定期的に評価を行っている。本人には日々の中で、家族には面会時意向確認し計画を立てている	利用者ごとの担当職員がモニタリング様式に記入し、会議で検討し計画作成者が計画案を作成しています。計画案を利用者、家族に説明し、意見を取り入れています。計画は3カ月ごとに見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで気になること変化を記録し、こまめに情報交換し共有している。計画見直しに活かす		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りニーズに対応するよう努めているが困難な場合は他の機関への協力を頼んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩などで地域の人たちと面識を持ち、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう支援		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、訪問診療、往診で入居者の体調の変化の情報を伝え適切な医療が出来るよう支援します	市内の受診は事業所、市外の受診は家族対応で行っています。家族対応の際にも利用者の状況を書面で医師に伝えていきます。事業所は、週3回の訪問診療、週3回の訪問看護を受けられる体制を整えています。また、歯科の訪問診療も行っており、誤嚥性肺炎の予防などにも繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師訪問看護師にも状況を伝え、確認してもらい必要に応じ、受診や看護を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には早期退院に向け病院と連絡を取り状態の把握や受け入れに努めている。研修会や市の定例会議で情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居者に「重度化した場合の対応方針」を書面で説明して署名、捺印を頂いている。状況に応じ、本人、家族、事業所で十分話し合い医師の協力の元、現状と今後起こりうる状態を説明し、方針を共有しチームで取り組んでいる。本人家族の希望により看取りも行っている	入居時に重度化の方針を説明し、同意を得ています。利用者の状態に応じて、重度化や終末期に向けた対応を家族、事業所、訪問医の間で方針を共有しています。本人や家族の希望があれば、看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は緊急マニュアルに沿って適切な対応ができるよう、ホーム内研修等を行っている。急変時に対して個別に対応が記載されており、実際の対応時には振り返りも行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は年2回消防署立ち合いで災害、避難訓練を実施していた。コロナ禍で感染症を優先し出来ていなかったが令和4年6月より再開する。	令和3年度は感染症予防を重点に対策を行ったため、避難訓練を実施していません。災害時には道路を挟んで向かいにある特養と連携できるように準備を進めています。水や食料などを備蓄し、自家発電機の導入を決めています。	新型コロナウイルスの蔓延という特別な環境下ではありますが、火災などの災害はいつ発生するかわかりません。夜勤の職員も参加する実際の避難訓練を行うことはもちろん、机上訓練などを行うことで、災害対応に対する職員の意識を高めることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際には本人に声掛けをしています。記録については他入居者の記載時、人物特定が出来ないようにイニシャルで記入。排泄時は他の方に聞こえないよう耳元で伝えています。	職員には、過度に利用者のプライベートに踏み込むことがないように指導しています。入室時や食事の下膳の際には必ず意思を確認するなど、利用者の自己決定や尊厳を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを確認するような環境づくりは出来ている。性格上表現しない方の対応には受容的に接している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り一人一人の生活スペースに合わせて過ごして頂くよう職員間で情報を共有し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪、髭剃りや服装等身なりが整っているか、常に気配りしている。季節に応じた身なりになるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食事の片付けなど分担して行っている。ホームの畑で収穫した野菜を使用したりしている。	毎日の食事は事業所の畑で取れた野菜や近隣の農家で収穫した野菜を使うなど、季節の物を取り入れ、利用者の意向を反映して当日決めています。利用者と一緒に下ごしらえや盛り付け、片付けなどを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患、好みに応じた分量や形態で接種できるよう努めている。水分量、食事は毎日記録し集計して確認をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々に合わせて見守り、介助で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を表現できない方は排泄の一覧表を作り排泄リズムを把握し、適切なタイミングで声掛けし誘導。自立で排泄できるよう支援している。失禁が多くなって来られた方は下着の工夫などして不快にならないよう配慮している	ほとんどの利用者が自発的にトイレで排泄することができますが、排泄表などの記録から適時声掛けをしています。利用者の羞恥心などにも配慮し、声かけや誘導時には声の大きさにも気を配っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動、バランスの取れた食事、おやつにヨーグルトの提供などをし予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本週2回以上の入浴ができるよう取り組んでいる。その日の身体、精神状況や受診日、行事等の予定を踏まえたうえで、本人の希望や意思を尊重した時間帯で行っている。	週2回、午前中に入浴しています。利用者の意向を確認して、拒否のある場合は無理強いせず、気持ちよく入浴できるように職員は利用者ごとの支援方法を共有しています。異性介助は入居時に本人や家族の意向を確認しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は個々の希望に応じた休息を取っていただき、夜間も良眠できるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルで確認できるようにしている。変更がある時は記録し申し送りしている。月に1回や週に1回などの薬はカレンダーに記入し必ず朝夕の申し送り時に送っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望や力にあった役割や散歩、体操、レクレーションなど楽しんで取り組んでいただくよう支援している。(買い物はコロナ禍で自粛しています)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、本人の希望に合わせて散歩に出かけている。コロナ前は買い物やドライブにも出かけた	気分転換や体力の維持、骨粗しょう症の予防のためにも、日光に当たることを大切にしています。利用者は日常的に個別や少人数で職員と一緒に散歩しています。墓参り等は、家族の協力を得て、利用者の希望を叶えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族と相談しお金を所持し、買い物に同行し支援している。家族の同意を得た方は自己管理も支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて家族や友人と手紙や電話が出来るよう支援している。家族の同意で携帯電話も自己管理で使用している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いフロアーに大きな窓があり光や照明、湿度、温度管理をしている。壁面には季節、行事に合わせた展示物を飾り、玄関前には四季折々の花や野菜を植え、居心地よく過ごして頂く工夫をしている	広い居間にはソファや食卓テーブルが複数あり、利用者間の関係を考慮して席次を決めています。季節感を感じられる飾りつけや、誕生日の飾りつけなど、日々の生活に変化をつけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには長椅子、コーナー椅子一人用椅子があり友人と話せる場所、テレビや読書、音楽等入居者のニーズに合わせた空間づくりをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し本人が使い慣れた家具や好みの物を置き使用することで心穏やかに過ごせる工夫をしている。また、清潔保持にも努めている	利用者が安全に過ごせるように、家具の配置を工夫したり、利用者の大切にしていた物や馴染みの物を配置する等、安心して一人で過ごすことのできる環境づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口に手作りの表札を掛け、トイレにも貼り紙をして自立した生活が出来るよう工夫をしている		